



発行：飯能市教育委員会生涯学習課（文化財担当） 〒357-8501 飯能市大字双柳1-1 Tel (042)973-2111
第4号 平成21年3月31日発行 平成18年3月31日創刊

飯能の石仏と獅子舞を学ぼう

● 第4号の特集は「飯能の石仏と獅子舞」

今回は石仏と獅子舞を取りあげました。市内には多くの石仏があります。飯能の石仏を知ってもらうために、今回から3回のシリーズで飯能の石

仏を紹介していきます。

平成19年度に6件の獅子舞が市の指定文化財となり、旧名栗村の獅子舞と併せると9件の獅子舞が指定文化財となりました。

特集「飯能の石仏」 — 知って学んで守っていくために — 第1回

日本石仏協会会長
飯能市文化財保護審議委員
坂口 和子

1 **はじめに** 私たちの住んでいる飯能市には道ばたにひっそりと佇んでいる石仏が沢山あります。気にしなければ目にも止まらず通りすぎてしまうほど何気ない風景です。でも時には新しい赤いよだれかけが鮮やかに目にのこったり、お地藏さんの足元に小石やお花が供えられていたり、お年寄りが掃除をしたり、手を合せて拝んでいるのを見ることがあると、心と立止まることがあります。

石仏たちは私たちのご先祖がのこした信仰（神仏を信じてうやまうこと）の遺産なのです。昔の人がそれぞれの暮らしを大切に、一生懸命生きて証しとしてたてられたものですから、大きいえば日本人の精神文化の遺産ともいえるでしょう。

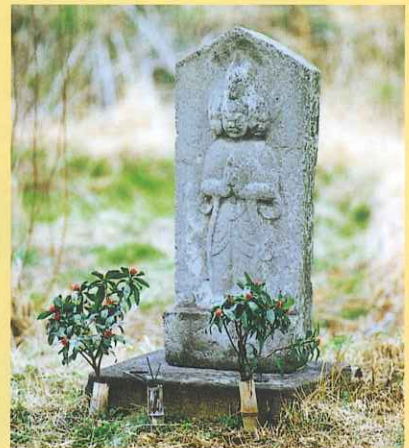
多く道ばたにたてられているのは、近隣の人が集まって「講」を組んだり、字ごと、村ごとに集団を作ってお祀りしたのだからです。村人が災難にあわないよう、平和で幸せな暮らしができるようにと神仏にお願いしたのです。

もちろん石造りで雨ざらしのため自然に崩壊してしまったものも沢山ありますが、現今の社会の変化にともない、開発や盗難などによって多くの石仏が失われていることも確かです。

100年も200年も300年も前から私たちの暮らしを見守ってきた石仏たちを、これからも大切に守っていきたくないと思わないではられません。次の世代に受け継いでいただくために、石仏を学ぼうではありませんか。

そこから私たちの郷土と先人たちの生き方が見えてくるはずですよ。自然の恵みに感謝し、神仏をうやまい、素朴に生きた先人のメッセージを聴きとりましょう。

2 **石仏ってなんでしょ** 「石仏」とかいて「イシボトケ」と読んでもまちがいはありませんが、「セキブツ」が現在は定着した呼称です。「石神」は「イシガミ」と読んでもいいのですが、「セキジン」で通っています。石で造った仏さまが「セキブツ」、石で造った神さまが「セキジン」で仏も神もいっしょにした呼称として現在は「セキブツ」が使われています。



馬頭観音

3

石仏はどこにあるのでしょうか

石仏を知るためにはまず見るのが大切です。石仏はどこにいけば見られるのでしょうか。道を歩くとときどき小さなお堂のなかに石の仏さまが立っているのをみかけることがあります。また車や人の往来する道ばたや交差点の角、田畠あぜの畦みち、神社やお寺の境内けしだい、沼や川のほとり、山の上などに安置されています。つまり石仏はすべて屋外に置かれているものです。寺院のご本尊もくちゆうはたいてい木彫ちゆうぞう(木材を彫刻したもの)が鑄造(金属でできたもの)が主になっていて本堂の奥におごそかに飾られて安置されていますが、石仏はほとんど屋外に雨ざらしでお祀りされています。これが寺院の仏像とちがう石仏の特徴です。

4

石仏はいつから造られたのでしょうか

日本の石仏の最古のものは奈良時代(7世紀)にさかのぼりますが、関東地方は江戸時代になってから造られたものが多いでしょう。飯能市で一番古い石仏は江戸前期の寛文年代で今から350年前になります。市内の石仏の悉皆調査をした報告書が刊行されていますが、それによると江戸時代中期(1700~1800)に最も多く造られています。

庶民(一般の人たち)の生活が向上し、経済的にも余裕が出てきたことが考えられます。明治時代になって急に造塔数が少なくなるのは、神仏分離しんぶつぶんりという政策を明治政府が行ったからだと思われます。石仏はその時代の社会全体の動きや経済と密接にかかわっていることがわかります。

5

石仏は何のために造られたのでしょうか

私たちが生きていくためには食物が一番大事です。昔の人は田や畠を耕し、穀物や野菜を植えて収穫し、生きる糧かてにし

ていました。また農民は税金として米や作物を納めていました。大事な農業にとって気がかりなのは天候です。自然きよういの脅威からいかにして逃れ、農作物や山の幸、海の幸が豊かであることを願い、また天災や人災がふりかからないように願いました。それと同時に村に悪霊が入りこまないよう、子孫が順調に繁栄するよう、病気になるまいよう、その上後生ごしゆう(死んだあと)も安楽であるようにと、真剣に神さま、仏さまをお祀りしました。その証しが沢山の石仏たちなのです。社会保障も病院もない時代、祈りの対象を身近に置くことによって心の平安を得ていたということでしょう。

6

石仏にはどんな種類があるのでしょうか

石仏の種類はおどろくほど多く500種類は下らないといわれています。飯能市内には50種類の石仏が存在しています。石仏の種類が多いということはそれだけ人々の悩みや願望が多いということの証拠です。そのなかで私たちがよく見かける石仏は、地蔵菩薩じぞうぼさつ(おじぞうさま)、観音菩薩かんのん(かんのんさま)、庚申塔こうしんとう(こうしんさん)の三つです。この三つの石仏は日本中どこへ行っても無いところはありません。飯能市は現在わかっている石仏が915基ありますが、お地蔵さまが多く全体の50%を示しています。石仏のみなもとは仏教にありますから寺院のご本尊と同じものが造られています。仏さまの世界は如来(によらい)、菩薩(ぼさつ)、明王(みょうおう)、天部(てんぶ)に区分されています。石仏も同じように造られますが、木彫仏ほど正確な表現はされていないものが多いようです。また日本人が昔から信仰してきた神さまもあり、仏教の仏さまといっしょになった石像などもありと、庶民の信仰の多彩さを知ることは楽しみでもあります。

7

石仏から何がわかるのでしょうか

石仏は小さな石の塊と思うかもしれませんが、実は沢山の情報を持っている“歴史の証言者”のようなものなのです。石仏の前に坐って目線で触れあえばきっと何かを伝えてくれます。頭をなでたり、裾のゴミを取り払ったり、後にまわって背中をみたり、彫られた字が見つかったらとにかく読む努力をしてみましよう。それが石仏を学ぶことなのです。次回は石仏の像容のいろいろを、また文字による情報の受けとり方を学んでいきたいと思ひます。



地藏菩薩



大日如来

1 しし・シシ・獅子? 宮崎駿監督のアニメ映画『もののけ姫』を観たことがありますか? この映画の中に、生命と死をつかさどる「しし神」という神様が出てきます。

話は変わって、「獅子舞」とは、木などで作った動物の頭の作りものを人がかぶって、祭で舞うものです。



アニメの「しし神」と「獅子舞」、どんな関係があると思いますか? 映画の中の「しし神」様は宮崎監督が想像で生み出したものですが、カモシカのような姿で描かれていました。

古い日本語で「しし」とは野生の動物のことで、いのしし(猪)・かのしし(鹿)のような名前にも「しし」という言葉が使われています。

そして、東日本に伝わる「獅子舞(ししまい)」の中の「しし」という言葉も、中国の「獅子」だけではなく、日本語の「しし」の意味が重なっているとも言われています。では、なぜ、人がわざわざ動物の頭の作りものをかぶって舞うのでしょうか?

2 悪魔はらいのヒーロー 昔の人は、伝染病や日照り・洪水のような災いは、地上をただよっている、目にみえない悪い霊がひき起こすと考えていました。そこで、イノシシや鹿・熊などの強い霊力を借りて、悪い霊を追い払ったり、しずめたりしようとしたのです。

獅子舞の「しし」は、人の力の及ばない、大きな自然の象徴ともいえます。ですから、さらに強い想像上の生き物、「獅子(ライオン?)」や「龍(ドラゴン?)」の頭をかぶるところもあります。

どんな形の頭をかぶっても「しし舞い」と呼ぶのは、こんな理由からです。

①の写真をみてください。これは「龍」の形をした頭で、鳥の羽でつくった長い尾は、龍の胴体を表しています。こわいような神々しいような不思議な表情をしていますね。

この頭をかぶって舞い、災いを追いはらい、世の中の幸福を願うのが獅子舞という芸能です。

〈写真①〉

3 ししは、どこにいる? さて、この「獅子舞」、かつて埼玉県内で250箇所あまりの獅子舞が行われていたといえます。一口に獅子舞といっても日本国内いろいろな種類があります。

東日本や埼玉県に多いのは、②の写真のように、男獅子2匹・女獅子1匹(計3匹)がお腹に太鼓をくくりつけ、この太鼓をたたきながら舞うもので、



〈写真②〉

「三匹獅子舞」と呼ばれています。実は、飯能市内にも三匹獅子舞のお祭が行われる神社が10箇所あります。

4

ししの舞い

うっそうとした神社の森の下、太鼓とササラ(竹で作った擦り楽器)、哀調を帯びた笛の調べのもと、異形のししが舞う姿は一種独特なものです。三匹獅子舞の音楽は、お囃子のようにテンポが速くにぎやかなものではなく、むしろ淡々と素朴で力強いリズムを刻みます。その中でししはどんな舞いを舞うのでしょうか？

ししの舞いは、「舞う」のではなく「狂う」と表現されることがよくあります。人ではなく威力のある神様になりきって踊る様子を表しているのでしょう。獅子舞を見ていると、時々、中身が人ではなく、本当の獅子や龍が舞っているような不思議な気持ちになることがあります。

舞いの中に本物の剣を使う「白刃」という演目があるのも、悪霊を斬り伏せる意味合いがあるようです。飯能市内では、下名栗や北川の獅子舞で今でも「白刃」の演目を見ることができます(写真③)。



〈写真③〉

5

舞いのストーリー

このように、しし舞いは、舞うことそのものにも意味があるのですが、同時にストーリーをもつ演目もあります。その代表的なものは「女獅子隠し」でしょう。

「女獅子隠し」は、男獅子二匹が女獅子をめぐる争う物語です。激しい争いの表現があったり、道化が出てきて争いをちゃかしたりします。最後には、山の神様など



〈写真④〉

の仲介で仲なおりをします。この他、演劇的でユーモラスな仕草をする演目もあります(写真④)。

6

獅子舞を見たいと思った方へ

獅子舞は地域の神社やお寺の祭礼です。地元の方へ挨拶する気持ちは忘れずに。そして写真を撮る時は、舞いや祭の邪魔にならないよう気をつけて。

《飯能市内で獅子舞がおこなわれる社寺・祭の日時》

- ・北川 喜多川神社 (8月17・18日)
- ・南川 花桐 諏訪神社 (8月16・17日)
- ・吾野 三社 我野神社 (7月最終土曜日) 〈写真②〉
- ・長沢 阿寺 諏訪神社 (10月第2日曜日) 〈写真①〉
- ・上名栗 檜淵 諏訪神社 (8月17日後最初の日曜日)
- ・上名栗 星宮・諏訪神社 (9月最終日曜日・4月第3または第4日曜日) 〈写真④〉
- ・下名栗 諏訪神社 (8月第4土・日曜日) 〈写真③〉
- ・小瀬戸 浅間神社 (10月15日に近い日曜日)
- ・飯能 諏訪八幡神社 (11月、飯能祭)
- ※大字高山 三輪神社 (祭礼休止中)

《もっと詳しく知りたい方へ》

『飯能の獅子舞—舞い狂う祓いの芸能』

飯能市教育委員会 2005年

(問い合わせ 飯能市教育委員会生涯学習課)